

## 令和2年度大台ヶ原・大杉谷森林再生応援団

令和2年10月2日（金曜日）

「弁当忘れても傘忘れるな」と言われるほど山の天気は崩れやすいものですが、当日は天気に恵まれ、まさに雲一つ無い晴天のなか「大台ヶ原・大杉谷森林再生応援団」を開催することができました。



大台ヶ原ビジターセンター前にて

三重森林管理署と近畿地方環境事務所との共催により開催したこのイベントは、ササの繁茂、区域の拡大によりササを食べるシカが増殖し、後継樹木の食害、母樹の剥皮被害による枯死など被害が拡大してきた大台ヶ原の森林を再生するために行われています。昔はコケが繁茂するうっそうとした森林だったそうですが、今やササが一面に広がり、立木がところどころに見られるような景色になっています。



大台ヶ原の景色



ササが一面に広がる

当日は 28 名のボランティアの方に参加していただき、稚樹を守る防護柵内のササ刈りを行う班と樹木の剝離被害から守るネット巻きを行う班に分かれ、それぞれ 1 時間程度の作業を実施していただきました。初参加の方もいらっしゃいましたが何度も参加されている方も多く、率先して作業していただいたことで、想定より広い範囲で作業を行っていただきました。



ネット巻きの様子



根元までネット巻き

また、昼食後に少し時間をいただき、ボランティア参加者に、環境省から両機関がこれまで実施してきた森林再生の取り組みについて、宮川森林組合の森氏から、大台ヶ原・大杉谷周辺に住む人々と森林の関わりについてお話をしました。

森林の再生には長い年月が必要ですが、「昔はササが一面に広がっていたけれども、当時の人々が再生活動に取り組んでいたおかげでこんな立派な森になった。」と言われるように、今後も地道に取り組んでいきたいと思えます。



展望デッキにて

【 宮川森林組合 森氏 から 】

木こりが木を伐る際には、表に 3 本・裏に 4 本の線が入った斧を持って行きます。3 本線はお神酒を意味し、4 本線は太陽・風・大地・水を意味しているそうです。森で作業をする際は、斧を木に立てかけてお供え物とし、豊かな山林を育んでくださった山の神様へ感謝の念を伝え、安全祈願を行ってきたとのこと。



表に 3 本線



裏に 4 本線